令和２年度　第１回小牧市観光振興基本計画改定委員会　会議録

日　時	令和２年９月 25 日（金）　10 時 30 分～12 時
場　所	小牧市役所本庁舎６階 601 会議室
出席者	【委員】（名簿順） 池田　洋子　学校法人同朋学園 名古屋造形大学 特任教授/小牧山整備計画審議会 会長/小牧市文化財保護審議会 会長【副委員長】 松浦　秀則　一般社団法人小牧市観光協会 会長/あおい交通株式会社 代表取締役 三輪　洋一郎　小牧商工会議所 中小企業相談所次長兼経営支援課長/小牧商工会議所 名古屋コーチンプロジェクト構成員 関　和男　名鉄小牧ホテル 営業担当支配人 堀岡　昌弘　尾張中央農業協同組合 相談部 ふれあい課 課長 鵜飼　公俊　小牧観光ボランティアガイド 会長 八木　裕介　一般社団法人小牧市観光協会 事務局 次長 竹内　隆正　小牧市 地域活性化営業部 次長【委員長】 【事務局】 村田　吉隆　地域活性化営業部 シティプロモーション課 課長 堀田　幸子　地域活性化営業部 シティプロモーション課 課長補佐 長谷川　愛　地域活性化営業部 シティプロモーション課 観光振興係 係長 大塚　一平　地域活性化営業部 シティプロモーション課 観光振興係
傍聴者	０名
配布資料	資料１　小牧市観光振興基本計画改定委員会委員名簿 資料２　小牧市観光振興基本計画改定委員会設置要綱 資料３　小牧市観光振興基本計画（with コロナ版）（仮称） 資料４　小牧市観光振興基本計画改定スケジュール

主な内容

１．開会

【事務局】

定刻となりましたので、会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、またお足元の悪いなか、小牧市観光振興基本計画改定委員会にご出席を賜り、まことにありがとうございます。また、このたびは、委員就任につきましてもご快諾を賜り、重ねてお礼申し上げます。

委員の皆様方のお手元には委嘱状を配付させていただいております。本来でございましたら委員お一人お一人に委嘱状を交付させていただくところでございますが、時間の都合上、このような形にかえさせていただきましたこと、ご了承ください。

なお、小幡委員におかれましては、欠席のご連絡をいただいております。

この会議につきましては、公開となっておりますので、事務局で会議録を作成し、ホームページ等で公開させていただきますのでお願いいたします。

それでは、第１回小牧市観光振興基本計画改定委員会を開催させていただきます。

なお、本日傍聴希望者はありません。

初めに、趣旨説明を含めまして地域活性化営業部次長の竹内よりごあいさつを申し上げます。

【地域活性化営業部 次長 あいさつ】

本日は、お忙しい中、第１回小牧市観光振興基本計画改定委員会にご出席いただきましてありがとうございます。また、この度は観光振興基本計画改定委員へご就任いただきありがとうございます。

私から、今回の小牧市観光振興基本計画改定委員会の趣旨についてご説明させていただきます。

小牧市では観光振興に向け、小牧市観光振興基本計画に基づき、観光推進施策を展開しており、従来であれば 2020 年までの期間としていたこの計画に続く次の五ヵ年計画の改定に向けての議論を行っていただく予定でありましたが、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、現地調査等で平常時のデータを取得することが困難であることなどにより、実情に即した計画を策定することができなくなってしまいました。

しかしながら、現在の計画だけでは変化する観光情勢に対応することが困難で

あることから、現在の計画を延伸しながらも、コロナ禍における観光振興について、方向性を示すとともに、感染症拡大の収束までの間の観光振興を見据えた観光推進施策について定めた、withコロナとしての小牧市観光振興基本計画の早急な策定を進めたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症がなかなか今後どのような状況に進んでいくか、不明瞭なことばかりの現状ではありますが、ぜひ委員の皆様には、それぞれのお立場から活発なご意見をいただき、有意義な委員会としていきたいと思います。

どうか皆様よろしくお願いいたします。

２．自己紹介

【事務局】

では、本日の観光振興基本計画改定委員会のスケジュールを説明いたします。お手元の次第に従いまして、委員長、副委員長の選任をしていただき、議題（１）と（２）を順にご協議いただきます。

まず始めに、委員のご紹介をさせていただきます。資料１として委員の名簿を配布させていただいています。ここで、一部訂正をさせていただきます。１番に学校法人同朋学院と記載がありますが、学校法人同朋学園でございます。謹んで訂正させていただきます。

＜委員紹介＞

続いて、事務局の紹介をさせていただきます。

＜事務局紹介＞

３．委員長、副委員長の選任

【事務局】

続きまして、委員長、副委員長の選任をさせていただきます。

観光基本計画策定委員会設置要綱　第４条第１項より、委員会に委員長及び副委員長１人を置き、委員の互選によりこれを定める。としております。

お認めいただければ、事務局案をご提案させていただきたいと思いますが、意見はありませんか。

それではご提案させていただきます。

委員長には、小牧市地域活性化営業部　竹内次長。副委員長に名古屋造形大学特任教授　池田様にお願いしたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

それでは、委員長に竹内委員、副委員長に池田委員、お願いします。お二人につきましては、お席を前に移動していただきますようお願いいたします。

以降の進行につきましては、竹内委員長にお願いします。

４．議題

（１）小牧市観光振興基本計画（with コロナ版）（仮称）について

【委員長】

それでは、ご指名をいただきましたので委員長を務めさせていただきます。副委員長とともに、皆さんのご協力をいただき、より良い計画が策定できるよう議論してまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

では、議題に入ります。

議題１、小牧市観光振興基本計画（with コロナ版）（仮称）についてです。事務局から説明をお願いします。

○事務局より、資料３に基づき、説明。

【事務局】

それでは小牧市観光振興基本計画 with コロナ版計画案を説明させていただきます。委員の皆様には予めご送付させていただいておりますが、事務局にてあらかじめ案を作成させていただきました。

まずは、これまでの計画改定の経緯についてご説明させていただきます。

現計画である小牧市観光振興基本計画は、平成 25 年度において一年間を通じて実施した小牧山城築城 450 年事業で高まった本市の観光機運を観光振興につなげていくため、観光まちづくりの目的や方向性について明らかにし、本市の観光における指針とすべく、学識経験者や有識者からなる小牧市観光基本計画策定委員会において平成 27 年度と 28 年度の２か年をかけ策定したものです。

先ほど委員長からもあいさつの中で説明がありましたが、令和３年３月で計画期間が終了することから、本来なら昨年度末から本年にかけ、委員会を開催し計画の改定を進めていく予定でございました。しかしながら昨年度からの新型コロナウイルス感染症拡大により、３月から開催を予定しておりました改定委員会の中止、また同じく３月から実施予定としておりました、計画改定に向けた本市の各種実態調査は現在も実施できない状況が続いております。実態調査が実施できない状況である以上､本市の実情に即した計画改定ができないという判断により、計画の改定をいったん中止し、現計画を延伸することとし、このコロナ禍に対応

した本市の観光振興の方向性や観光推進施策を定めた with コロナ版計画として現計画に付加する形をとることといたしました。

それでは with コロナ版計画案についてご説明させていただきます。

資料３の小牧市観光振興基本計画（with コロナ版）をご覧下さい。

まず初めに今回の経緯と、with コロナ版計画について説明させていただいております。

経緯については先ほどご説明させていただいた通りですが、今回策定する with コロナ版計画は、新型コロナウイルス感染症が収束した状態、具体的には治療薬やワクチンが実用化され、だれもがいつでも自由に利用できる状態になるまでのものとし、その後に改めて新たに計画の改定を行うことを想定しております。また計画の評価指標や目標値についてですが、現計画で設定しているものにつきましては、当初の計画期間である令和２年度末をもって廃止することとします。また今回策定する with コロナ版計画につきましては、状況が日々変化するコロナ禍においては目標設定が困難であることから、新たな評価指標、目標値は設定しないこととします。

まずは全体の構成から説明させていただきますと、第１章では「新型コロナウイルス感染症拡大予防を前提とした観光を取りまく状況」として、新型コロナウイルス感染症が確認されてから今日までの国や県、本市における状況をまとめました。そして第２章では観光を振興するうえでの新たな要素として、新型コロナウイルス感染症拡大により派生した観光に関して、着目すべき点について述べております。そして第３章ではコロナウイルスの発生を発端として国や愛知県において実施される観光推進施策をとりまとめました。第４章では新型コロナウイルス感染症を乗り越えるための計画の戦略として、本市でコロナ禍における観光振興のテーマや方向性を示しております。そして第５章では第４章で設定したテーマや方向性に沿って、実施すべき具体的な観光推進施策を挙げさせていただいています。

では、順に説明をさせていただきます。

１章の（１）「背景」につきましては、皆様すでにご承知の事実ですので割愛をさせていただきます。ただ、今ご覧いただいております案は、皆様に事前に郵送させていただいたものから、動きがありましたコロナの状況について追記をさせていただいておりますので後程ご確認ください。なお状況につきましては with コロナ版計画が策定されるまでの間、必要に応じて追記をしていくこととといたしま

す。

３ページの（２）、「with コロナでの観光については」観光による感染症への恐怖などの観光に対する意識の変化や、「新しい生活様式」の実践や各種ガイドラインに沿った感染防止対策の実施、また団体旅行から個人旅行など好まれる旅行形態の変化など、新型コロナウイルス感染症がもたらした観光への変化について記載しております。

またここでも上から４段目に７月から開始された国の事業である GoTo トラベルについて追記をさせていただいておりますのでご確認ください。

続きまして、第２章「観光を振興するうえでの新たな要素」では、前章で述べた観光に関する変化を受け、コロナ禍における観光で必要とされる要素について４点に着目してまとめました。

１つ目は、新しい生活様式への転換、感染防止対策の徹底の周知啓発。
これは、三密の回避、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用や手洗いの推奨などの新しい生活様式や、各業種に設けられたガイドラインの徹底を促すための啓発です。

２つ目は、“非来訪型観光”をキーワードとしたオンラインによる観光情報発信の強化です。実際に来訪しなくても、家に居ながら観光を楽しむことができるよう、全国では様々な取り組みが進んでいるところです。例えば旅行の疑似体験ができるようなＶＲを制作しネット上で公開するといったような取り組みです。

３つ目、公衆衛生に関する正確な情報及び”分散“をキーワードとした安心安全な観光の提供は、例えば入場制限や予約制の導入など来訪者にコロナへ感染させないための、言い換えるとコロナ感染予防と観光の共存のための視点です。

４つ目は、感染拡大の収束までの間だけでなく、収束後の観光振興を見据えた施策の展開についてですが、この先感染症収束後においても、先ほど述べたようなコロナにより派生した観光への変化は少なからず継続されることが想定されます。そうしたことから with コロナ時代だけの取り組みに終わるのではなく、after コロナ時代においても、その取り組みを活かしていける、また after コロナ時代で実施すべき観光施策へ繋がるような、先を見据えた施策の展開が求められているということです。

続きまして、第３章です。ここではコロナウイルス感染症を発端として国や愛知県において実施されている観光推進施策についてまとめてあります。

内容については割愛させていただきますが、こちらは７ページ以降に詳細を記

載してありますので合わせてご確認ください。

続きまして第４章、新型コロナウイルス感染症を乗り越えるための計画の概略についてです。

この章から具体的な内容となるわけですが、６ページの（概略）をご覧ください。

まずは、このコロナ禍において本市が目指すべき姿について示していきたいと思います。

まず、基本理念についてですが、このwithコロナ版計画については現計画へ付加するものであることから、現計画の基本理念をそのまま引き継ぐこととし、テーマ及びコンセプトについては、コロナ禍に対応した本市の観光振興の在り方について設定していきたいと考えています。

テーマについては、「withコロナ、afterコロナに向けての観光」とし、テーマを実践するためのコンセプトとして「withコロナで種をまき、afterコロナに芽を出す、来訪意欲者に継続的な興味を抱かせる観光推進施策」としました。

国や県では既にGoToキャンペーンやLOVEあいちキャンペーンなどが実施されておりますが、現時点において、小牧市内の各施設では入場制限などが継続実施されるなど、以前のように来訪者を受け入れることが厳しい状況にあります。また、日本観光研究学会が実施したアンケート結果によりますと、コロナウイルスが収束したとして、コロナ前年の水準あるいはそれ以上に需要が復活すると考える観光研究者は、１年後で２割、２年後でも７割にとどまるだろうという結果となっています。加えて、コロナ発生以前のような観光スタイルへ戻るまではかなりの時間を要することが推測されているところです。さらに、治療薬やワクチンが開発されていない現状においては、感染状況は日々変動をしていくと想定されます。こういった状況の中、現地観光を受け入れないということではありませんが、今は積極的な誘客を図るというよりは、収束後に本市へ来訪していただけるプレ来訪者、言い換えればファン予備軍を獲得する時期ととらえた観光振興を展開すべきではないかと考えました。そうしたことから、第２章で示した観光を振興するうえでの新たな要素も踏まえ、オンラインを最大限活用した小牧市の魅力発信、遠くにいても観光ができる非来訪型観光の実現、来訪を望まれる方に対しては安全安心な旅の提供、改めて地元の方に自分たちの地域の魅力を知ってもらうといった地域資源の再確認を視野に入れた観光振興を進めていきたいと考えました。

そして、afterコロナ時代へ移行した際には、withコロナの時代に実施する施策により、本市へ来訪意欲を持っていただいた方が、実際に小牧へ訪れていただけるよう施策を展開していきたいと考えています。

続きまして、第５章、withコロナ/afterコロナの新たな観光推進施策です。ここでは、具体的に実行すべき観光推進施策を記載しております。

国、愛知県等の施策への事業者の参画支援

これは、例えば国が実施する GoTo キャンペーン事業などへ本市の事業者が参画していただくよう、情報提供などの支援を行うものです。また愛知県と連携し、本市の観光情報の提供や愛知県が実施する各種事業への参画を想定しています。

小牧山周辺バーチャル街歩きマップの整備

これは、オンラインを最大限活用した小牧市の魅力発信及び非来訪型観光の実現の施策として実施しようとするもので、ＶＲを利用して Web 上で家に居ながら街歩きをしているような感覚が楽しめるマップの制作を想定しています。駅から小牧山までを範囲とし、画像や動画を見ながらエリアを Web 上で散策できるような仕様を想定しています。

既存パンフレットの電子化、オンライン公開整備

これは、小牧市観光協会で作成しているパンフレットを観光協会のホームページで電子化して公開しようとするものです。コロナ禍ではなるべく接触を避けるなどの対策がとられていることから、こうしたオンライン化は積極的に進めていかなければいけないと考えます。

地域産品のオンライン通販整備

これも非来訪型観光の実現の施策として実施しようとするもので、Web 上で小牧のお土産や特産品などが買えるように整備を進めようとするものです。小牧発祥の名古屋コーチンの肉などは、なかなかお土産として取り扱うことが難しいことから、こういった折に取り組んできたいと考えています。

観光施設、観光資源の PR 動画オンライン公開整備

これは、オンラインを最大限活用した小牧市の魅力発信及び非来訪型観光の実現の施策ですが、YouTube や Instagram など SNS を使用した情報発信です。例えば YouTube によるガイド動画の公開などを想定しています。

感染防止対策の情報公開に使用可能なピクトサインの作成、提供

安心安全な旅の提供を実施する施策で、小牧市のロゴマークを流用したピクトサインを作成し、事業者の方々が実施している感染防止対策の啓発のために自由

に使用してもらおうといったものです。

観光施設のオープン状況、感染防止対策情報の一元化、オンライン公開整備

これは、安心、安全な旅の提供の施策として実施しようとするもので、本市を観光する際に、知りたいと思うコロナ対策情報などを集約して提供することを想定しています。情報を取得したい方にとっては大変有効になると思われるので、細やかな対応をしていくべきだと思います。

以上が本編の説明で、７ページ以降は語句の説明及び国、県などの観光施策の詳細を記載していますのでご確認ください。

以上が with コロナ版の事務局案の説明です。

○質疑・意見の発言内容

【三輪委員】

内容についてはよくわかります。コロナの情勢の中で考えた、新たな要素や with コロナ/after コロナでの新たな観光推進策となっていますが、もともと観光地として確立されているところが、コロナの対策として今まで来訪していた人に対してオンラインやバーチャルでオンライン化することは効果があると思います。

しかしながら、そもそも小牧が観光という部分で出来上がっていたかどうかと考えると、まだ不足している部分が多いと思いますし、出来上がっていないものにオンラインといっても効果は薄いのではないかと思います。そのため、オンラインの充実は実施する必要があるとは思いますが、今まで進めてきたものをもう少しブラッシュアップするなり、新たに確立していかないと、結局はオンライン化というものが活きてこないのではないかと思いますので、同時にまだ完成されていない部分のことを、今の時期に整理するべきだと考えます。評価がまだわかりませんが、まだ前回の観光振興基本計画が完遂されていないと思うので、同時に今まで進めてきたものについてもメインでやっていかないと新しい対策の効果も生まれてこないのではないかという気もします。

【事務局】

冒頭でもお話をさせていただいた通り、現在の観光振興基本計画は廃止をするわけではなく、延伸をし、継続しつつも、現在の計画ではカバーしきれない with コロナでの施策を付加する形の計画とさせていただいています。ご意見いただいた通り、現在の計画の中で出来上がっていないものについては、それを完遂するように進めていきたいと思っています。また、現在の計画の結果分析についても

進めており、今年度中には結果がまとまり、次の全面改定に向けての資料として利用し、全面改定を進めていきたいと考えています。

まとめますと、現在の計画はwithコロナ版の計画とともに進めていきつつ、現計画の実績については、次の計画に活かしていければと考えています。その際にはご協力いただければありがたいと思います。

【三輪委員】

現計画は残しつつ、コロナ版を付け足すようなものといった理解でいいですか。

【事務局】

その通りです。

【松浦委員】

三輪委員が言われたように、今回の計画に反対ではありません。いわばwithコロナにおいてオンライン化して、web 上でも楽しめるといったものであると思います。

そんな中、この次のステップを考えていくと、いろいろなことが小牧市の中で進んでいっています。例えば、１２月開館のこども未来館や来年完成の図書館、また資料を参考に持ってきましたが、再来年にはハイウェイオアシスができることがほぼ確定しています。こども未来館でも図書館でも、せっかくお金をかけて行うのだから、そういうことも何らかの形で観光にもつながっていくと思います。

今回の計画はオンライン化というだけだと思いますが、次の計画では、本業の交通の話で申し訳ないが、１２月から変更の動きもありますので、このことも次の計画の中に十分入れていく必要があると思います。今回の計画はオンライン化といったもので終わるが、現実に次なるものは見えているので、そういう状況をこの委員会が知らない顔をしているのもおかしな話だと思います。知らない顔というよりも、次の計画改定の時の話になるとは思いますが。

余分な話かもしれませんが、こども未来館も図書館も、巡回バスが５月ぐらいまでタダで乗るような仕組みの話を公共交通会議の中でしています。みんなを集める仕組みを作っていきます。図書館で観光グッズを置くかどうかはわかりませんが、いろいろな変化を踏まえて取り組んでいってもらいたいです。コロナの時期ではどうかはわかりませんが、図書館などがオープンすると各市町村から視察に来ます。それはこども未来館でも。そういう時を上手に利用しないといけないと思う。見に来るときは名鉄小牧ホテルさんを利用する、それでいろいろ動く、じゃあ足はどうなっているか、ということになると思います。もうその状況は近々

に迫っていると思いますので、そういうことも考えていくべきではないかと思います。

【八木委員】

話が違うかもしれませんが、今年 NHK 大河ドラマの「麒麟がくる」において、ちょうど先々週に小牧が紀行で紹介されました。コロナで観光案内所も閉鎖になった時期も春先にあり、いまは解消しているが、やはり今現在でもお客さんが５割以下に減っています。ただ、シルバーウィークの直前に「麒麟がくる」が放映されたタイミングの良さもあり、この４連休では例年のゴールデンウィーク並みの利用者がいました。アンケートを取ったところ、ほとんどが「麒麟がくる」を見てきたとの結果で、NHK のパワーはすごいなと思いました。これからも放映は続くそうなので、この流れを止めたくはないと思っています。それがうまくオンラインの施策につなげていければと思っています。

【鵜飼委員】

ちょうど「麒麟がくる」のタイミングが良かったです。いったん放映が止まって、復活の一番最初が小牧山。あれで小牧市民はどよめきですよ。ちゃんと小牧山城との字幕が出てきて、信長と光秀が対峙するという大広間の場面から始まるグッドタイミング。

今、八木委員からも言われたが、小牧山にシルバーウィークで 19 日 430 人、20 日が 626 人、21 日 750 人、22 日が 14 時 30 分で帰宅しましたが、その時点で 400 人来ていました。これだけ連続できたのは初めてです。例えば、市民まつりで１回 1,000 人来たことはありましたが、４日続けてどんどん来ることは、初めてではないかと思います。

ついでにお話しさせていただきますが、小牧山に車でくる場合、ナビで駐車場を検索しますが、警察の横の小牧山北駐車場を示します。あそこに止めて、れきしるこまきを目指します。そうすると、小牧山をぐるっと半周歩くことになります。前からいっていますが、なぜ小牧市役所の駐車場を小牧山の駐車場として使っていけないのか。前にお話ししたら、市役所の駐車場はあくまで市役所を使用するための駐車場で、小牧山に登る人は山北の駐車場を利用してほしいとの話が数年前のことだがありました。市役所駐車場に止めると、れきしるに行ったり、大手道にすぐ行けます。なぜ、市役所駐車場が使えないのか。大抵、皆さん裏から登ってきて迷子になります。そんな苦情が私に来ます。観光客の苦情は市役所には来ません、私に来ます。

加えて、前からの話でもありますが、個人客もそうですが、観光バスの駐車場が遠くのほうにあります。あそこから歩くことになります。また、観光バスが来たらトイレに行きたい。

あとは売店、お昼を食べるところが、このあたりにほとんどありません。市役所のレストランがあるではないかとか、デニーズ、スガキヤのラーメンがあるという話もあるが、もう少し違うものと考えると距離があります。

レストランはともかく、少なくともトイレが欲しいです。売店もあれば名古屋コーチンも売れるのではないかと思いますが売店もない。そこで苦情があります。長年の課題だが、いい方向にはいっていません。それを何とかしてもらいたいと思っています。

ついでに言いますと、今回の計画のオンラインですが、小牧山に来る人はだいたい私と同年代で、オンラインを見ません。オンラインというと、大抵若い人が対象で、若い人にはいいと思うが、小牧山に来る人にホームページに定休日が記載されていることを説明しても、ホームページなど見たこともないという話になります。そういう人が小牧山に来ます。平日に来るといったら、だいたい60代以上の人で平均年齢70歳。この人たちは、オンラインを見ません。オンラインの対象年齢をどこにしているのか。私もネットは使っているけれども、amazonで買い物を１回もしたことがありません。そういう人には、withコロナのバーチャルやオンラインにはちょっと不安があります。

【事務局】

駐車場の話は市役所の施設管理の話もあるので、シティプロモーション課の一存で何かお話ができるものではないので、申し訳ありません。

【鵜飼委員】

その答えがずっと５、６年続いています。

【三輪委員】

この課題は当然認識していて、松浦委員もそうですが、環境整備、観光バスの駐車場、トイレの整備は会議所の立場でも要望させてもらっています。そこは前向きに検討していただいていると思っています。

【鵜飼委員】

平日は市役所のトイレが使えます。土日になると使えません。南側の入り口からは入れる、という話もありますが、日曜日はトイレに困ります。れきしるまで走っていくしかありません。れきしるができてからはまだいいです。れきしるが

できる前は、他に走っていかなければいけなかった。

【三輪委員】

誘客、集客しようと思うと、どのような順番がいいのかと思います。お店の話も出ましたが、事業者側からしてみたら、ある程度集まってくる土壌、環境がないと、そこにビジネスチャンスは見出しません。そうなると、先ほどの図書館とかラピオであるとか、これからいろいろな所が変わっていき、環境が整ったうえで事業者がくっついてくると思うと、観光の部分でも環境整備はまずそこから始めないといけなくて、事業者との絡みが先に来ると難しいかなと思います。その意味でも、来やすい、分かりやすいというのは重要で、観光バスが誘致できるような環境は必要かなと感じています。

【松浦委員】

現在、観光バスを止めるところもトイレがありません。ざっくばらんに話をしていますが、ドライバーとしては困ります。小牧山のれきしるに走るといっても、大変です。観光バス会社は止まりたくありません。何のために観光バスが止まると言ったら、結構トイレのために止まります。例えば、田県神社は結構観光バスが止まります。

【鵜飼委員】

立派なトイレがあります。

【松浦委員】

そう、トイレがあるから止まります。乗っている人もそろそろトイレに止まってくれないかというと、ちょうど田県神社に止まる。小牧山も南側に観光バスの駐車場があるから利用してくださいと言っても、すごい距離でお年寄りが走っていくことは出来ません。ガイドさんやドライバーも嫌がります。この話は５年ぐらい前からやっていますが、土地があって、バスが止められるからいいというのではありません。そのせいで来たくないところになっています。それは本当に取り組んでいかないと、取り組んでもらわないといけないし、小牧山も本当は土産物屋とか食堂とか、鵜飼委員が言う通りのことができていないと観光施設としてはいけないが、それは文化庁などでできないであるとか、そんなことばかりで動きが取れていません。けれども本当に人が喜ぶ施設にしていくためには、それを破っていかないといけません。そのあたりが課題だと思います。

【三輪委員】

先ほど話に出ました４連休にたくさん来たのは、メディア、テレビの効果が要

因としてあります。今後、その一時だけではなく、どうしたら年間通じてある程度知名度が上がるのか。やり方としてメディアの力がすごいというのが分かったのであれば、発信の方法も何かしらやれるようにすれば、継続的に４連休程度の人がやってくるということにつながるのではないか。

【鵜飼委員】

あの４日間は異常だと思います。

【三輪委員】

でもそれぐらいは期待したいということですよね。

【鵜飼委員】

個人的にはあんなに来ては困ります。観光をやろうという人たちに言っては怒られるかもしれませんが。毎日 200 人ぐらい来てもらえるのが、一番理想的。今日は雨が降っていますが、晴れていても４連休後の水曜日は 40 人程度しか来ていません。その 40 人を少なくとも倍程度の 100 人ぐらいにしたいです。

【松浦委員】

例えば、市役所の駐車場もどこかへ行くために置いていくような変な使い方をしている人も大勢います。そうであるならば、市の施設である小牧山に来る人の駐車場として使うことぐらいは認めてあげないとおかしいのではないかと思う。小牧市が推進しようとする小牧山に訪れる人であるのだから、他での使い方がほとんど自由であるのに小牧山は認められないというのは理解できません。黙って置いておけばいいのだろうけど、小牧山に訪れる人は市役所の駐車場もお使いくださいといったことがどうして書けないのか、書けると思います。そういうような言葉を書いてほしいわけですよね。

【鵜飼委員】

そうです。

【松浦委員】

小牧山が私有地ならともかく。

【鵜飼委員】

れきしるのパンフレットも駐車場は小牧山北駐車場と書いてあります。

【松浦委員】

市役所の駐車場に勝手に止めればいいのだろうけれども、小牧山で使うことに関しては問題ないと思います。市長も問題ないと言うと思います。

【事務局】

大変力強い言葉をいただいたので、私どもも粘り強く交渉していきたいと思います。お話しいただいた通りだと思うので、担当部署と調整していきたいです。

【松浦委員】

それぐらいできなければだめだと思います。

【事務局】

もう１点オンラインのお話だが、なにもすべてがオンラインというよりは、例えば紙での情報発信を 10 とした中でオンラインが２、SNS が３といった、いろいろなことをやっていく中で、いろいろな世代へいろいろな情報発信をしていきたいという様に事務局は考えています。紙を全てとしてしまうと、例えばいま私たちが観光地に行くとしても紙、パンフレットは見ませんし、京都へ行っても、どこへ行こうかというと、スマホで検索してしまいます。そのため、いろいろな世代のいろいろなところへターゲットを持ちたいと考えています。

鵜飼委員がおっしゃるように比較的高齢な方が小牧山へ来てみえる、そこから考えると、比較的若い方にまだまだ情報提供が薄いのかもしれないといった裏返しにもとれる可能性があるので、オンラインにも力を入れていきたい、いろいろな沢山の情報ツールを持ちたいといったところです。

【鵜飼委員】

ツアーで来る人は 100%、60 歳以上なのが現実です。これが土曜日のツアーであれば学生さんもいますが、平日の昼間に観光バスに乗る会社員はいません。そうすると平均年齢が 70 歳に達します。

【三輪委員】

今、オンラインツールを使っている人たちも、そのうち 60 歳、70 歳になっていくので、長期的に見ればそういう整備も必要だと思います。

【池田委員】

トイレの問題はぜひとも解決していただきたいです。れきしるを造る時もトイレをすごく増やしてくださいと言ったのですれども、増えてあの程度なので。

【鵜飼委員】

あれでも小さいのですよね。

【池田委員】

ものすごく小さいです。あれではだめだから倍にしてと、すごく言ったのだけれども駄目で、あの形になってしまいました。

あと、売店と食堂の件ですが、先ほどお話があったように、来る時に 200 人、

400人、少ないときは40人。この落差で売店を開くと売店はつぶれます。あの場所が文化庁の管轄になっていて、売店なんかを造ってはいけないという条件になっていて造れないのです。

そこで、観光協会からもすごく意見がありましたので、私はあそこにどうしてキッチンカーを出さないのかと言いたいです。観光協会がなぜ入れないのか。いまではどこだってキッチンカーです。博物館でもみんなキッチンカーを入れて土日はそこで営業しています。ホテルだってそうです。熱海のホテルであっても、売店は常時営業していなくて、キッチンカーを持ってきてアイスクリームを売ったり、その時にテーブルを組み立てたりして営業しています。それなのになぜ小牧はそれをしないのか。それが分かりません。土日だけ働くということが出てきてしまいますが、あそこにキッチンカーを入れてはいけないという条例はないのでいくらでも入れます。でも入っていません。5、6年前から早く入れてくださいといっているが誰も入れません。今は大学でもお昼休みにキッチンカーが入っています。店がない売店がないとおっしゃっているが、固定したものは置けません。フランスでもルーブル美術館の横の公園に、ものすごく大きいキッチンカーが来ます。それで営業します。そして夜になるといなくなります。そういう形でみんな観光シーズンを回しています。ここでもツアーの観光バスが来る日は分かっているのだから、その日に出せばいいと思います。それが出ていないのはどうしてなのか、私も皆さんに伺いたいです。

また、トイレの問題は前から言ってはいるが、あれぐらいが最大となってしまいました。

オンラインは事務局がおっしゃったように高齢者用に出しているわけではなく、新しい層を開拓するためにやっているのですから、もっと出せばいいと思います。360°カメラやVRをオンラインでもっと出して、見てもらった人が、じゃあ一度本物を見に行こう、といった形になっていかなければいけないものですから、もっと出していっていただきたいと思います。

オンラインショップなんかは、例えばここにきてオンラインショップで頼んで、家に帰って次の日ぐらいに届くといったものであれば、帰るときに荷物がなくてみんないいと思います。実物がなくてもいいのですから、いくらでもやりようがあると思います。

駐車場の問題は駐車場にバーを付けてきちんと管理すべきだと思います。例えば、れきしるに入ったら駐車券にスタンプが押してもらえて割引処理をする。バ

ーを設置するのにお金がかかるので、それは利用者に払ってもらえばいいと思います。市役所が土日開放するときにお金を取りますと言って、れきしるに入ってもらえれば割引があるようにすればいい。ただ開放しろといっても、開放できないので、タダで止められるといった発想は止めて、来た人からいくらかは取らなければいけなくて、それは駐車場の発想として当たり前だと思います。タダではなくて、いくらか、本当はワンコインが一番いいが、とるといった形を考えて、提案して、土日は駐車場が空いているので、ワンコインで入ってもらえるような駐車場を造って、それを市役所の売り上げの中に入れるべきですし、それを観光のために使っていかなければいけないので、お金をとってきちんとやっていっていただきたいです。

それぐらいを今聞いていて思いました。ずっと思っているのは、とにかく早くキッチンカーを入れてくださいということです。

【松浦委員】

キッチンカーは入れるのですか。

【池田委員】

入れます。入れるという条件で売店等を造っていないので。

【八木委員】

れきしるがオープンした時にキッチンカー３台で営業したことがあります。

【池田委員】

どこかのお店と提携しないとできないと思います。缶ジュースからなにまで、何でも売るということになるので､キッチンカーといっても料理だけではなくて、そういうものも売るという感覚でいてほしいです。れきしるを造るときにそういう感覚で造っているので、ぜひそう言った方向で賄ってほしいと思います。観光協会さんはどうでしょうか。

【三輪委員】

今こういったご時世なので、イベントや催事がなくなっていて、キッチンカーもほとんど動いていない現状ではありますが、平時の時であれば、事業者も人が多いところを選んで、１日の稼ぎが多いところに行きます。そうなると、現状の小牧山に出店してくれといったときに、喜んで出てくれるかというと厳しいと思います。そうすると、４回シーズンがあるとして、シーズンごとにある程度リスクが減るような契約を結んで、どこかに決まってやってもらうといった形にしないといけないと思う。何回か出てもらって、やっぱり駄目で、また探さないとい

けないとなると非効率なので、毎週土日小牧山に来ても最低限の補償はしてもらえるような環境をつくれば、出やすいのではないかと思います。

【池田委員】

そういうところで駐車場代が必要ということになります。

【松浦委員】

夏まつりには無茶苦茶キッチンカー来ましたね。

【三輪委員】

やはり、人が集まるといった想定があったからだと思います。

【松浦委員】

引っ張ってきたのですか。

【事務局】

自主的に来ていただきました。ホームページに載せただけです。

【松浦委員】

補償は何もしていないのですか。

【事務局】

何もしていないです。電気を用意しただけです。

【松浦委員】

夏まつりに出てきてくれた人たちを小牧山に持ってくる形であるとか、５年間ぐらい補償するといった形でしかできないのかもしれない。

【事務局】

ぜひ観光協会さんで考えてもらいたいです。

【池田委員】

バスでもミステリーツアーなどがあるが、ツアーの時にはキッチンカーを出しています。人寄せをしないことには何もないと思われてしまい、そうなると怖いので、バスが来る時にキッチンカーをセットにする。ある程度人数が来ることが分かっていないと頼めないと思うので、組み合わせというか、いろいろなところと擦り合わせをしてもらって、うまく作り上げてほしいです。春の桜まつりや秋のイベントなどと一緒に組み合わせていかないといけないと思います。

小牧山で鎧を着せるというイベントもありますよね。あれもその場に来た人に対して受付をしていますが､最初から葉書で申し込んでもらえばいいと思います。

【鵜飼委員】

あれはわざとそうしています。人数が来すぎてしまうので。

【池田委員】

何人までと制限すればいいと思います。そうすれば、何人は必ず来るので、その数を教えてキッチンカーを呼べばいい。手間はかかりますが、来るのか来ないのか分からない状態では何も手が打てないので、来るのか来ないのかを把握できるようになればいいと思います。

【八木委員】

イベントとしては桜まつりや夢夜会が挙げられると思います。

【三輪委員】

時期的なイベントではある程度想定ができ、その場所で何かイベントをやるということであれば人の集め方はいろいろあると思いますが、期待するところは小牧山そのものがシンプルに観光コンテンツになることが一番いいことだと思います。ただ、小牧の観光地としての小牧山に何もイベントがなくても平時に人が来るといった形にならないと。

【池田委員】

なかなかそれは難しいです。一日限定何名とかの特別なものができれば人は来るだろうけれども、そういったものもないので。

【松浦委員】

交通は交通、観光は観光、文化は文化とやっていると駄目なので、縦割り行政を打破していかなければいけません。

実はバスでいえば一番集客があるのは市民病院です。みんなが行くのは市民病院。でも人が寄っていくということはいろいろなことが生まれるということでもあるので、そのラインを今までとは少し違うものにしていこうとしています。

今までこまき巡回バスと呼んでいましたが、今度「こまくる」といった名前になります。いろいろな意味がありますが、小牧の由来の一つとしての駒が来るといった意味や小牧の中をくるくる回るといった意味もあります。観光客が乗ってはいけないものではありませんし、65歳以上はタダでもあるし、冒頭でも話したように期間限定ですが図書館行く、未来館行くといえばタダにもなります。そういう申請を我々が出していますので、活かしていくということもしなければいけないと思います。

（２）計画改定のスケジュールについて

【委員長】

続きまして、議題２、計画改定のスケジュールについてです。事務局から説明をお願いします。

○事務局より、資料４に基づき、説明。

【事務局】

この改定委員会は、with コロナ版計画が策定されるまで本日を含め３回程度の開催を予定しております。次回は 10 月に第２回目の委員会を予定しており、本日いただきましたご意見を反映し、施策の立案等に対し、より深掘りしていく予定です。そして３回目の委員会を 11 月頃開催し、最終のとりまとめをさせていただき、12 月中旬には計画の完成及び運用開始というスケジュールになっております。

以上が改定のスケジュールについてです。

○質疑・意見の発言内容

特になし。

【委員長】

ありがとうございました。

以上で議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】

皆さま、お疲れさまです。また、大変貴重なご意見をお聞かせいただきありがとうございました。

連絡事項をお伝えさせていただきます。第２回、第３回の委員会のスケジュールについて、お手元に調査表をお渡しさせていただきました。ご確認のうえ、９月 30 日までに事務局へご回答くださいますようお願いいたします。

以上で、第１回小牧市観光基本計画改定委員会を終了とさせていただきます。

長時間にわたり、ありがとうございました。お気をつけてお帰りいただきますよう、お願いいたします。ありがとうございました。